



近時片片

昨年の11月に二つの集まりがあり、出席の機会があったので、この場をお借りして簡単に報告しておきたい。

一つは県営の東大芦ダムが建設中止となって10周年とのことで、昨年11月3日に現地でその記念集会有った。この会については私の連絡ミスがあり、趣旨から言うと、本来であれば出席される筈の塚崎代表や手塚さんなどが出席できなくなってしまった。大変申し訳ないことであった。会場に入ってみると既に当時の知事・福田 昭夫さんや宇大の名誉教授・藤原 信さん、流域の会の鹿沼の室田さん、弁護士の大木 一俊さんなどが見えていて、懐かしく握手会拶させていただく。お祝いの席では話題は今後の東大芦地区のことにまで及んだが、これからの10年が、東大芦の自然にとっても、また住民のみなさにとっても実りあるものであってほしいと思った。

木々の紅葉などを眺めていたら、突然、かつて10年ほど前に東大芦ダムの反対運動の一つとして行った野外コンサートのざわめきが、一瞬間こえてきたような気がした。考えてみると当会も東大芦ダム中止運動では、それなりに大きな役割を果たした。特に二回にわたる地元での野外コンサートや鹿沼市内での集会と、いずれもかなりインパクトのある集まりを持つことができた。単なる集会ではなく東大芦ダムの中止を訴える歌を携えてのコンサートや映像を交えた集まりは隅さん・中島さん(両名とも今は故人)そしてその仲間のサムシングの皆さんの力が大きかった。芸術の力を織り込んだあの新しいスタイルの集まりが東大芦ダム建設中止の方向への気運を盛り上げる上で大きな力を発揮したと思っている。

もうひとつの集まりは11月24日、福島県南相馬市の同慶寺というお寺で開かれ他「大地と祈り 2013」という集いでアメリカ・インディアン運動(AIM)のリーダーとして世界的に名を知られているデニス・バンクスさんの「日本ツアー2013」の一環として行われた。

会場である同慶寺は原発から直線距離にして20キロぐらいのところ、海岸から3~4キロの平地を見下ろす、少し小高い丘の上にあった。そんなわけで津波の被害は免れたが、今でも放射エネルギーが高く、(0.4マイクロシーベルト/秒)。現在でも夜間の滞在は許されない地域とのことであった。

集まりはまず、大型バス(檀家の運転手さんの奉仕活動)による周辺地域の見学ツアーから始まった。バスで20分ほど行った海岸べりの津波で何も残っていない地域にこのお寺の住職・田中徳雲さんが中心となつてがれきを埋めた小高い丘を作り、そこにきちんと植林がされていた。これは宮脇昭さん(横浜国大名誉教授)が防波堤として提唱している方法で私も、今、考えられている津波に備えての防波堤としては最も優れた方法だと思っていたものであったが、思いもかけず実際に造られたものを初めて見ることで大感激だった。

暖かい本堂に戻って集会有った。まず参加者全員が般若心経などの祈りの後、住職がこのお寺のことやご自分の生活のことなどを話された。震災で原発事故が起きて、まだお子さんが幼少のこともあり、福井の方に避難されたこと、それ以降、二年間ほど福井と福島の間を自ら車で何百回と往復して、お寺の復興屋ガレキの山への植林などに力を尽くしてきたことを語った。次にデニス・バンクスさん。デニスさんはこのお寺で

目次:

近時片片	1
オフグリッドの本	2
パブコメ意見提出	2
水湧く場所で川むしたんけん	3
スモモ、柿、山栗と放射能	4

お知らせ

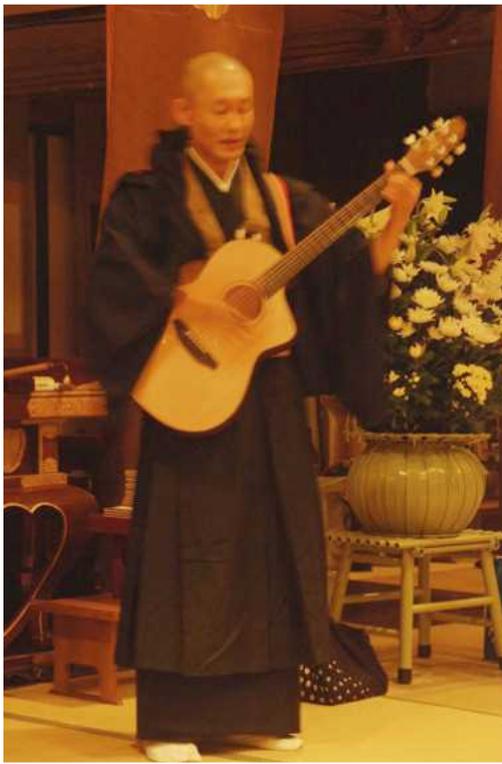
次回の定例会

2014年2月26日(水)

日光市民活動支援センター

午後1時~2時





昨年も同じような集まりを持ったとのことであった。2011年3月11日・日本で大震災が起きたことを知って心を痛めてアメリカで祈りを捧げていたが、思い切って昨年やってきたとのこと。日本人は血を分けた兄弟のように思っているの、ヨーロッパなどにはもうあまり行きたいとは思わないが、日本にはこれからもできれば毎年やってきたいとのことであった。それによって自分も力をもらっているとも語った。その日の朝は、3時に起きて被災した人々や亡くなった人々のために祈りを捧げてきたとのことであったが、長旅の疲れも見せず、元気に太鼓を叩かれて祈っておられた。

集いでは多くの参加者の歌や演奏が披露され、ここでも改めて音楽の訴える力、癒しの力を感じさせられた。住職の徳雲さんも震災以降の活動の中で、檀家やボランティアの方たちと演奏団を結成し、お坊さんのお姿のまま自らもギターを首から吊るして歌われ、お釈迦様を讃える歌などを何曲も披露されていた。

デニス氏は、来年は音楽祭のような形式にしたいという。集会の最後には参加者全員がひとりひとりハグをし、言葉を交わして別れを惜しんだ。この集いに私は何か「全体性」といったものを漠然と感じたが、それは禅の心とアメリカ先住民の心が結びついた、賜物だったのだから。

私たちが本堂を後にして駐車場に向かうと既に凍てつくような寒気に覆われた暗闇の中に徳雲さんが防寒具など一切着けずに、すずやかに私たちを見送るために待機されていた。

『物事の決定にあたっては、七代先までのことを考えて行う』という

アメリカ先住民の人々の生き方に思いをはせながら帰途についた。

■ ユーチューブで「同慶寺・大地と祈り 2013」を検索すると見ることができます。ぜひご覧下さい。(森)

こんな本見つけました！

『電気は自給があたりまえ オフグリッドで原発のいらぬ暮らしへ』

(田中 優・編著 合同出版 2013.9.14 発行)

現在の太陽光発電システムでは日中の余剰電力は電力会社に売ることになっていますが、これを蓄電させ自宅で夜間に使用できる廉価な機器はないものかとかねがね思っていたら、そのヒントになる本がありました。

オフグリッドとは送電線網を切断することだそうです。田中さんは電力会社の電気を買わず、自分で発電して暮らす事を考え、実行している人です。3.11を経験して、私達は初めて原子力発電の危険性を知らされました。私もその一人です。この本は、自宅の送電線とメーターの除去を電力会社に依頼する場面から始まり(このやりとりがとても面白い)、設置した太陽光発電と「パーソナルエナジー」で節電せずに暮らしている現状を報告しています。原発の本当のコストは、政府が引用する発電単価(5.3円/kwh)の倍以上の10.68円になっている(大島堅一著『原発のコスト』岩波新書)ことも紹介しています。この「パーソナルエナジー」を製品化した神戸の慧(ケイ)通信技術工業株式会社代表の栗田隆央さんと、脱原発宣言をした東京の城南信用金庫理事長 吉原 毅さんの文を記載。田中さんとの座談も記録されていてたいへん読みやすく、これからの日本の進むべき道を照らしてくれる一冊だと思います。(塚崎)

「パブリックコメント」に意見を書いてみた

「原発推進」の姿勢を変えようとする資源エネルギー庁の「エネルギー基本計画」にうんざりしていたところ、パブコメを募集しているということを知り合いからのメールで知り、はじめて意見を書いてみた。提出内容は以下のとおり。(手塚)

受付番号: 201401060000241518

提出日時: 2014年01月06日12時13分

案件番号: 620213015

案件名: 新しい「エネルギー基本計画」策定に向けた御意見の募集について

所管府省・部局名等: 資源エネルギー庁長官官房総合政策課

意見・情報受付開始日: 2013年12月06日

意見・情報受付締切日: 2014年01月06日

氏名: 手塚郁夫(栃木県日光市)

提出意見: 従来、十分なシビア・アクシデント対策を講じることができず、今回の放射能汚染を防ぐことができなかったことの反省、また事故原因の徹底的に究明への表明については評価いたします。

しかしながら、「原子力は、安定供給、コスト低減、温暖化対策の観点から、安全性の確保を大前提に引き続き活用していく重要なベース電源」というかんがえ、また、すでに破綻が見えている「核燃料サイクル政策の着実な推進」の内容については同意できません。この計画は将来にわたってエネルギー需要が増大していくという前提で書かれているように思えます。

放射能を長期にわたって管理することは自然環境と私たちの社会に大きな負担をかけます。エネルギーの無駄遣いを押さえつつ、高効率の火力発電と環境負荷の少ないエネルギー開発により持続可能な社会の実現を目指していただきたいと思えます。

水湧く場所で「川むしたんけん」

10月19日実施

秋の「川むしたんけん」は、「NPOなんとなくのにわ」の《サイエンス・カフェ》に協力の形で10月19日(土)、猪倉の林の中で行いました。川ではなく林の中？ と不思議に思われるでしょうが、地下水が湧き出している所やそこから小さな流れとなって川が生まれていく様子を子供達にぜひ知ってもらいたく、林の中をガサゴソ移動しながら、そこに棲む生き物たちを見つけ観察してきました。少し肌寒い日でしたが、「猪倉児童クラブ」の子供達も参加。泥んこになりながら一生懸命見つけてくれた生き物達の名は下の欄に記しました。

ここで少し湧き水について触れたいと思います。私達の街は、日光連山が生み出した独特の地形である扇状地—今市扇状地—の上に成り立っています。この扇状地の地下にはたくさんの水が蓄えられており、大谷川がその役割を担っていることから大谷川扇状地とも呼ばれています。今市はおいしい水の郷として知られ、たくさんの食品産業があるのもこの豊かな地下水を利用しているからです。

今市扇状地の特徴は、扇状地の中に残っている山や丘の麓で水が湧き出ていることで全国的にも珍しいそうです。地面から湧き出た水が暮らしの中で大きな役割を果たしてきたことなど、上水道が普及した現在ではすっかり忘れられた存在ですが、この湧き水をもう一度注目してみるのも楽しいことではないでしょうか。

今市にはいくつもの湧き水が今もあり、それらゆうすいは湧水と呼ばれています。この湧水群は湧出量やその水温の変化、周辺の生物種など、年間を通しての調査が旧今市市時代の平成13年から続けられており、市民がボランティアとして協力しています。私もその一員です。



今回、「川むしたんけん」に選んだ所もその湧水のひとつで、雑木林の中の窪んだ場所から水が湧いています。そこから幾筋もの小さな流れが生まれ、それらが合流して川らしきものになっていくのですが、それはわずか100mにも満たない空間です。溜まった落ち葉が土に戻っていくその場所は、足を入れるとなかなか自由に歩けません。最初、泥んこになるのをためらう子もいましたが、小さな流れの涸でサワガニが幼体から成体までたくさん見つかると皆の動きが活発になってきました。ドジョウを捕まえた子もいました。こんなところにいるとは—。これにはびっくりしました。

昭和30年代は水田面積拡張の時期でした。水の確保という点でこの湧水は貴重な水源だったと想像できます。小さな流れを利用して田圃と水源地を行き来していたドジョウがその証となるでしょう。子供達が見つけてくれたことによって今回、それを確信することができました。子供達に感謝です。

水質を判定する環境省の「指標生物」では、水質階級Ⅰ(きれいな水)

●サワガニ、ヘビトンボ(幼虫)

水質階級Ⅱ(少しきたない)

カワナ

が見つかりました。

水質階級Ⅲ(きたない)と水質階級Ⅳ(大変きたない)は、いませんでした。

指標生物のほかに、見つかった生き物は次のとおりです。

モンカゲロウ(幼虫)、オニヤンマ(幼虫)、サナエトンボ(幼虫)、ヤンマ科トンボ(幼)、ミズアブ、ドジョウ、●ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル

(●はたくさん見つかった生き物)

今回の場所は生き物の種類が少なかったですが、水質はたいへんきれいです。他ではなかなか見つからないシュレーゲルアオガエルがいたことも大きな発見でした。(塚崎)





- 8月28日(水) だいや川通信 第35号発行
- 9月25日(水) 定例会
- 10月19日(土) NPOなんとなくのにおわ 川むしたんけん
- 10月27日(日) イエローシートキャンペーン
贈呈式に出席(イオン)
- 11月27日(水) 定例会
- 12月25日(水) 定例会
- 1月19日(日) 新年会

郵便振替口座
00140-4-535550

連絡先
〒321-1102 日光市板橋1732-1 森方
今市の水を守る市民の会
0288-27-2183 (8時~17時:森)
0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)
<http://somesing.net/daiyagawa/>

スモモ、柿、山栗と放射能



今年は豊作だったスモモ(2013年7月)

庭に10年くらいになるスモモの木があります。6月から7月は、新鮮な実を楽しむことができました。放射能が降ってから食べるのをやめていましたが、昨年は実がたくさんだったので、放射能測定にかけました。結果は不検出でした(セシウム134:0.7ベクレル以下、セシウム137:2.3ベクレル以下、数値は1キログラムあたりのベクレル

値、以下も同じ)。安心して、ジャムにしたり、収穫した実と検査結果を知人に配ったりしました。

秋になり、小さな柿の木に、枝が曲がってしまうほどたくさんの実がなりました。測定結果はスモモと同じく不検出でした。

スモモや柿から10メートルも離れていないところに山栗の木があります。皮をむき刻んで放射能測定を依頼しました。1キログラムあたり、セシウム134:8.8ベクレル、セシウム137:20.4ベクレルという結果でした。セシウム134は半減期がおおよそ1年です。福島原発から飛散した134/137の比率は同じというデータがあります。セシウム134は約半分になり、137はほとんど減少していないと考えれば、このベクレル値は納得できます。合計で約30ベクレルという値は、厚労省の決めた「出荷基準」を満たしているとはいえ、積極的に食べる値ではないと思いました。せつかくの栗の実は地面に落ち、これをリスや野ネズミが食べるのかと思うと、山の生き物に申し訳ない気持ちになります。

なぜ同じ場所なのに果実の放射能に差があるのか。放射性セシウムは土壌深くには浸透していないはず。根のはり方の違いなのだろうかといろいろ考えましたがよくわかりません。

昨年9月に出版された「土壌汚染—フクシマの放射性物質のゆくえ」(中西知子著 NHKブックス)が参考になりました。117ページからの「果樹の汚染」にモモの放射能汚染についての記述があります。西東京市の試験場に、いくつかの条件でコンテナ栽培されていたモモの木がありました。果実の放射能を測定したところ、約30ベクレル。この値は土壌がむき出しのコンテナと、原発事故前に土壌表面を防草シートで覆ったものとで変わらなかったそうです。土壌の放射能はそれぞれ163.1、26.9ベクレルでした。シートで覆われた土はあきらかに放射能が少ないにもかかわらず、モモの実のベクレル数は同じという謎。以下、本文119ページから引用します。「果実の汚染は根が土壌から放射性セシウムを吸収したためではなく、樹木に降ったものが転流して実に運ばれたことになる。こうして果実の汚染は土壌の汚染よりも樹木の直接汚染からの移行という要素が強いことが示唆された」なんと、樹皮に付いた放射能が吸収され、果実に移行したというのです。専門家も知らなかった植物の働きなのだそうです。

放射能が検出された山栗は若い実生の木です。昨年はじめてたくさんの実をつけました。樹皮にとどまっていた放射能が一举に実に移行したのでしょうか。同じ場所の山桜の表皮をはいで、放射能測定にかけたところ、1500ベクレル近い放射性セシウムが検出されました。土壌や樹皮の放射能を測定し、放射能の動きを監視することが、今後重要になるのではと思います。

放射能測定のための土壌採取や試料作りに協力いただける方を募っています。以下のメールアドレスにお知らせください。info@nantonakuno.net (手塚)

編集後記

我が家の薪ストーブから出る灰の放射能はキログラムあたり6千ベクレルを超える「死の灰」です。以前のように庭や木の根元にまくことができません■いっばいに入れたブリキ缶に線量計を置くと、毎時0.3シーベルトを超えます。被曝を避けるため、一時保管場所を作りました■ガンマ線は直進し障害物があれば減衰します。20センチ厚のコンクリートブロックでシールドすると、線量はぐっと下がります。裏は土手が遮蔽になります。空に向かって飛びガンマ線は100メートルくらいで消滅します。全体を鉄パイプで補強し、屋根を付けて総工費2万円也。この費用は東電に請求できるのでしょうか。(T)

